

(続紙 1)

京都大学	博士 (経営科学)	氏名	串田 ゆか
論文題目	かかりつけ薬剤師へのジョブ・クラフティングを促進する要因： 組織や職業へのコミットメントを中心にして		
(論文内容の要旨)			
<p>近年、日本政府は、薬剤師に対して「かかりつけ薬剤師」という職務内容の新たな付加を求める職務転換政策を展開しており、そのことによって薬剤師の自律的な職務変化が求められている。だが、専門職である薬剤師がどのようにそれを進めているかについては実務的かつ学術的に重要な研究課題であるものの十分に検討されていない。本論文は、薬剤師が特定顧客への接客や関係管理の業務を新たに引き受ける職務変容過程をジョブ・クラフティングの観点から捉えて、それに職業および組織へのコミットメントが一定の影響を与えることを明らかにした試論的な調査研究である。</p> <p>本論文は8章から構成される。序章では、専門職である薬剤師が「かかりつけ薬剤師」へと職務内容を転換する過程を彼らのジョブ・クラフティングと捉えることができるとして、その転換要因の検討が高い意義を持つことを示す。</p> <p>第2章では、本論文の研究課題であるかかりつけ薬剤師という役割が、政府や医療団体などによる近年の医療改革の中で新たに政策的に設定され、その内容が顧客関係管理業務を中心に再定義されているのだが、実際の普及の現状は必ずしも順調ではないことを指摘する。特に、薬剤師には、一般的に、かかりつけ薬剤師という新たな役割行動内容の構築と転換に積極的な者と消極的な者がおり、こうした改革を進めるには、役割内容の転換の促進要因を経営学的に論ずる必要があることを主張する。</p> <p>第3章では、本論の分析枠組を構築する上での組織行動や人的資源管理の関連理論について先行研究を概括する。かかりつけ薬剤師の職務内容は、薬剤師にとっては、本来専門職にとっての特定顧客との関係をカスタム化する「役割外行動」を発展させたものである。こうした「役割外行動」の発展と取得についての分析枠組について概括した後、職務内容の転換に関わるジョブ・クラフティングという分析概念を導入して、その転換過程について検討する。</p> <p>第4章では、ここまでの議論をまとめながら、本論の分析枠組を示す。職務内容の転換過程をジョブ・クラフティングの過程として捉え、それに影響する要因として、本論では、専門職としての職業と会社組織へのコミットメントの意識の強さが、ジョブ・クラフティングに影響するという因果関係に注目し、その影響について考察する分析枠組を提示する。</p> <p>第5章では、本論文の調査研究を行う文脈を理解するために、薬剤師の日本における実態について整理をする。薬剤師の職務意識のあり方の変化と現状の傾向、特に、かかりつけ薬剤師の導入とそれへの日常業務的な意識のあり方を考察する。</p> <p>第6章では、実証分析の予備的な分析として、職業コミットメントと、所属企業への組織コミットメントの意識のあり方における、かかりつけ薬剤師と非かかりつけ薬剤師の違いについて、大阪府下の典型的な中小の調剤薬局企業を対象にして実施したアンケート調査のデータを用いて分析を行った。その結果、職業的、組織的コミットメント共に、情緒的次元が高いことの有意な効果がみられなかった。ただ、功利的次元を示す存続的コミットメントについては有意な効果が見られた。従って、かかりつけ薬剤師の役割を積極的にとる者は、薬剤師という職業や、薬局という企業に対する経済的な関係から関わる傾向が見られる。</p> <p>第7章では、かかりつけ薬剤師という職務内容の変化というジョブ・クラフティングの過程に対する、職業コミットメントおよび組織コミットメントの影響について、大阪府下の典型的な中小の調剤薬局企業を対象にして実施したアンケート調査のデー</p>			

タを用いて分析を行った。ジョブ・クラフティングの計量尺度に関しては、JD-Rモデルに基づく日本版ジョブ・クラフティング尺度を薬剤師向けに応用したものをを用いた。その結果、職業コミットメントおよび組織コミットメントの情緒的次元が、「構造的な資源の向上」や「挑戦的な要求度の向上」というジョブ・クラフティングの行動次元と正の相関を示していた。反面、功利的な次元である存続的な職業コミットメントおよび組織コミットメントは有意な影響を示さなかった。

第8章は、これまでの分析枠組に基づく調査分析を整理し、事例の検討を加えながら職業的および組織的なコミットメントが、かかりつけ薬剤師へのジョブ・クラフティング行動に一定の影響を与えることを結論する。職業や組織への情緒的コミットメントは、職務資源の拡大や挑戦には、促進的な効果が見られる。ただ、組織へのこうしたコミットメントは、仕事の負担を減らす取組に関しては阻害的な傾向が見られた。

注) 論文内容の要旨と論文審査の結果の要旨は1頁を38字×36行で作成し、合わせて、3,000字を標準とすること。

論文内容の要旨を英語で記入するときは、400～1,100 wordsで作成し、審査結果の要旨は日本語500～2,000字程度で作成すること。

(続紙 2)

(論文審査の結果の要旨)

日本政府が、高齢化する患者達への過剰薬剤投薬問題と個々の健康管理への対応のために、2016年から「かかりつけ薬剤師」の導入を政策的に開始した。だが、その導入は店頭の薬剤師の職務の大きな変容とそれに伴う混乱を現場で起こしている。高度な専門職である薬剤師に対して、特定顧客への顧客関係管理の業務を付加し発展させることを望む職務転換政策は、彼らの自律的な職務変化を必要としている。だが、高度な自律性と専門性を持つ専門職である薬剤師が、自らどのようにその職務転換を進めているかについては、重要な実務的、政策的な研究課題であると共に、専門職の職務転換過程の解明という学術的な研究課題でもある。これまで、薬剤師や専門職の自律的なジョブ・クラフティングは、組織行動論、人的資源管理論等の関連領域でもあまり中心的には検討されてこなかった。本論文は、まず、薬剤師のジョブ・クラフティング及びその要因の研究が国際的にもあまり進んでいないことを、先行研究から明らかにしている。そして、専門職としての職業と組織へのコミットメントがジョブ・クラフティングに一定の影響を与えるとの独自の分析枠組を設定した。そして、こうした分析図式から、この二つの帰属意識の内容が、職務変容に一定の影響を与える点を、典型的な薬局チェーンを対象にした計量的なアンケート調査の分析を行い、それを事例分析と合わせて検討することをした。その結果、情緒的な次元の職業および組織のコミットメントが、職務資源の拡大や挑戦意欲に対して一定の効果があることを明らかにした。ことに、専門職としては高いと考えられてきた職業上の帰属意識だけではなく、従業員としての会社組織への帰属意識も職務変容に影響している効果を見出したことは、試論的ではあるが、専門職のジョブ・クラフティング過程について新たな貢献をしていると評価できる。また、薬剤師という専門職が、サービス・エンカウンターにおいて、その接客態度だけではなく、顧客関係管理業務に関わる職務転換をする過程の分析は、専門サービスの経営学にも一定の貢献をしている。

だが、本論文も今後の研究において解明すべき課題が三点ある。第一に、薬剤師の職務役割の認識が、法令や公式の職務規程を基調にしているために、役割内行動と役割外行動の境界とそれらの内容転換の過程がやや不明確になっている。そのために、薬剤師が、自律的にどのように「役割」を捉え直し、変容させているかについてはあまり明確になっていない。第二に、経営者のモニタリングや指導の影響についての考慮があまりされていないので、ジョブ・クラフティングが、経営成果にどのように結びつくかについては、現状としては十分に検討されていない。本来、ジョブ・クラフティングは、労働者が自主裁量的に職務行動を変容させることを検討するので、労働者が経営成果を重視しない変容も起こりうる。第三に、職業や組織のコミットメントが、職務資源の拡大や挑戦に対して効果があるものの、ストレス・コントロールにはむしろ阻害的な傾向が見られるように、必ずしも、働き方改革に効果的ではない面が見られる。

しかし、こうした諸課題も、今後の筆者の研究の発展によって解明が進むと思われる。よって、本論文は博士（経営科学）の学位論文として価値あるものと認める。また、令和5年1月30日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。

注) 論文審査の結果の要旨の結句には、学位論文の審査についての認定を明記すること。更に、試問の結果の要旨（例えば「平成 年 月 日論文内容とそれに関連した口頭試問を行った結果合格と認めた。」）を付け加えること。